

【市長賞】みんなで食べる給食

明和小学校

杉浦 彩巴

私は、みんなで給食を食べることがとても好きです。しかし、小学校生活の始まりは少し変わっていました。

二〇二〇年四月、私は小学校に入学しました。ピカピカのランドセルを背負って、どんな友だちができるかなとわくわくしていました。ところが入学してすぐに、新型コロナウイルスの感染が広がり、学校は休校になってしまいました。まだ友だちもほとんどできていなかったのです。とても残念でした。しばらくして、分散登校が始まりました。クラスを半分に分けて登校するため、会えるのは一部の子だけでした。もう半分の子とは会えないので、同じクラスなのに知らない子のような気がしました。

やがて、やつと全員がそろって学校に行けるようになりました。とてもうれしかったのですが、給食の時間は思っていたよりも静かでした。机は動かさず、全員が黒板の方を向いて食べました。先生から「給食中はしゃべらないように。」

と言われ、友だちと話すこともできませんでした。しばらく静かな給食が続き、スプーンの音だけが聞こえました。おいしい給食なのに、少しさみしいふんい気でした。でも、それはみんなが安全に過ごすために必要なことだと分かっていたので、がまんしました。

そして今では給食の時間はすっかり明るくなりました。机を向かい合わせにして、近くの友だちと

話しながら食べられるようになったのです。

「このからあげおいしいね。」

「今日のデザート、ゼリーだ！」

と、笑い声があふれます。みんなで食べる給食がもどってきたと感じました。

友だちと食べる給食は、ただお腹を満たすだけではなくありません。話しながら食べると、同じ料理がもつとおいしく感じます。自分の好きなメニューの時だけじゃなく、少し苦手なものも、友だちと一緒にだと食べられてしまいます。私は、給食はクラスの仲を深める大切な時間だと思いました。

コロナ禍の経験を通して、当たり前だと思っていたことが、実はとてもありがたいことだと知りました。みんなで同じテーブルを囲み、同じものを食べて笑い合えることは、とても幸せな時間です。これから、給食の時間を大切にしていきたいです。そして、もしもまた何かの理由で静かな給食になったとしても、きつと楽しい時間がもどつてくると信じています。今、こうして友だちと笑いながら食べられることに感謝しながら、残りの小学校生活を過ごしていきたいです。